

2026年4月10日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 二宮 浩輔

インド国シッキム州山岳道路連結性改善事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2026年3月16日(月) 13:58～18:00
- ・場所：JICA 本部(2階202会議室)及びオンライン
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、貝増委員、衣笠委員、重田委員、二宮委員
- ・議題：インド国シッキム州山岳道路連結性改善事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】インド国シッキム州山岳道路連結性改善事業(協力準備調査(有償)) SC案
 - 2) 回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2022年1月)

全体会合(第178回委員会)

- ・日時：2026年4月10日(金) 13:59～17:32
- ・場所：JICA 本部(2階202会議室)及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 本事業対象地域は、多民族が共存する地域であることから、特定民族だけが不当に扱われているとの誤解が生じないようなコミュニケーションを心掛けるとともに、ステークホルダー協議においても各民族・コミュニティが本音で発言できる環境を整えるよう配慮し、その結果を DFR に記述すること。

スコーピングマトリクス

2. 土地制約が大きいことから補償に対しては、非正規住民を含めた各民族の文化的背景などを十分配慮したうえで、その内容を DFR に記述すること。
3. 地震や地滑りなどの自然災害や、GLOF（氷河湖決壊洪水）に伴い懸念される影響についてスコーピングマトリクスに記載するとともに、必要に応じて危機管理等の対応策を DFR に記述すること。

環境配慮

4. 本事業は保護区の直接的改変はないものの、事業対象地域は多様な生態系を有する地域であるため、野生生物の行動圏や保護区周辺への影響にも十分配慮し、必要に応じて施工時の影響低減措置を検討して DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

5. ステークホルダー協議において先住民族の「意味ある参加」(ガイドライン別紙5参照)を確保するために、民族の文化・言語・伝統などを尊重し、情報開示・協議・広報を丁寧に行うように実施機関に申し入れ、その結果を DFR に記述すること。

以 上